

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2024年  
4月10日  
第163号



## ハナニラ（ヒガンバナ科）

今、温室前の鉢植えで花を咲かせています。アルゼンチンまたはウルグアイ原産の多年草で、明治時代に鑑賞用として日本国内へ導入され、現在では帰化植物となっています。鱗茎かニラに似た葉を数枚出すところから命名されました。ニラやネギのような匂いがする、と書かれている記事もありますが、実際の匂いは微妙と思います。本植物は、食用にも薬用にも利用されたという記録はなく、むしろ食べられない、としている記事が多かったです。成分研究でも、鱗茎から新規フロスタノール配糖体（サポニン）が発見された、という報告があるくらいで、薬用植物園として栽培する必要性は全くないのですが、かわいい花が咲くと、手間いらずな植物で植えっぱなしにしておいても増えるので、そのままにしているという状態でしょうか。

## エンドウ（マメ科）

今、第一圃場で花を咲かせています。園内にあるのは、1922年に古代エジプトのツタンカーメンの墓を発掘した際に、副葬品の中から種子が見つかり、その栽培に成功して「ツタンカーメンのエンドウマメ」として広まったもの、とされていますが、真偽は不明です。エンドウは、かつては花や種子の色の違いからサヤエンドウとアカエンドウの2つの変種に分かれていましたが、現在ではすべて同じ種に整理されていました。本種はムラサキエンドウという名でも流通しますが、あくまで通称で、エンドウの栽培品種の一つとなります。種子がエンドウ（豌豆）という名の生薬となり、中医学で和中解肌、通乳を目的に、嘔吐、下痢、乳汁不足の改善を目的に利用するそうです。